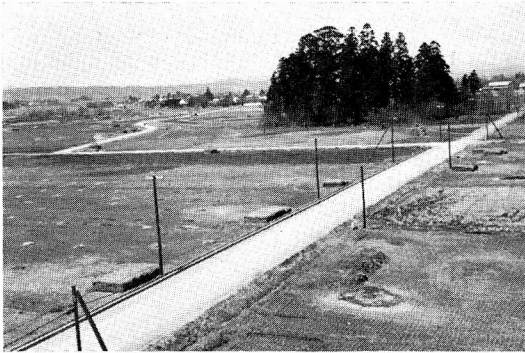


トに達した。これは逆に畑は三四・一ヘクタール、二六・六パーセントが、三〇・〇ヘクタール、一五・三パーセントに減じた結果になった。

この農業構造改善事業は、単なる耕地整理と異なって、耕地整備、開拓して増歩地を得ようとするのは勿論であるが、これにもなって、農業の各方面に於ける改善事業を実施しようとするのにある。さえばとしての蔬菜栽培実面積は減少しているが、馬鈴薯、レタス、玉葱などを重点栽培作物として、五年後には収益を七〇パーセントに引上げようとしたり、水田増加にともない、裏作として飼料作物栽培を奨励し、中家畜より大家畜に移行



農業構造改善の先駆をなした中央縦貫路
(下荒井—中荒井—高田街道)



構造改善を実施した中荒井地域と未施行
地域の下荒井との比較

しようとするなど、これはまださほど成果をあげるところまでは進んでいない。

目立つのは耕地の区画割が大きく変わったため、耕起・整地・代掻・刈取・乾燥・調製などのあらゆる面に機械施設が導入されて、その共同化が行なわれはじめたことである。これが、今、田植や水管理・病害虫駆除作業などに大きな改革をもたらそうとしている。既に人力・畜力に